

<金標準、日米金融政策を織り込み過ぎた反動の円安・NY金高・・・>



(出所：オアシス)

FOMCにおける0.5%の利下げ実施もパウエルFRB議長が「今回の決定を受けて『これが新しいペースだ』とは誰も捉えるべきではない」と述べている。また日銀金融政策決定会合では政策金利を0.25%に据え置き、植田日銀総裁は記者会見では政策判断に当たっては「時間的な余裕はある」と指摘し「直ちに見通しの確度が高まった、すぐ利上げだということにはならない」と述べている。そのためFRBの利下げを受けて金利引き下げの開始を好感し、また為替市場は円キャリー取引が再開した動きを見せ、日銀金融政策決定会合を受けて一時141.74円まで円高・ドル安が進むが、植田日銀総裁のハト派発言から144.49円まで円安・ドル高へ転換している。そのため金標準先物は、円安・ドル高でもNY金が史上最高値を更新し、更に円建て価格は円安の恩恵を受けて12198円まで高値を試している。特に為替市場で一時ピークを終えた円安の動きは、植田日銀総裁のハト派の発言を受けて今しばらく続くと思え、巻き戻しの動きには注意が必要と思われる。

<テクニカル>

金標準先物の日足のMACDでは、MACDが上昇し、シグナルは切り上げている。RCIでは短期が高値で維持され、長期は上昇している。ただ日足が10日移動平均線から乖離した状態であり、目先の買われ過ぎに対する調整には注意が必要と思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,437,000 円(2024 年 9 月 24 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 76,560 円(2024 年 9 月 24 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>